

富士中島の子育て地蔵

昭和六十二年三月五日号

富士の中島に富士川のはらんで流れ着いたと言われる子育て地蔵があります。今回はこのお地蔵さんの話を、中島下の高井峯雄さん、中島上の鈴木幸雄さんに語っていただきました。

流れ着いた地蔵さん

昔、富士の中島にカヤ積み場がありました。昔の家はほとんど麦ワラカ草ぶき屋根だったので、人々は富士山のすそ野からカヤを刈り、一カ所に積んでおいたのです。

あるとき、富士川がはんらんし、カヤ積み場に八十センチくらいのお地蔵さんが流れ着き

ました。お地蔵さんは長い年月かかつて流れ着いたらしく、首がとれていました。

お地蔵さんを見つけた村人は、首のかわりに丸い石を乗せ、社をつくりました。

そして、カヤ積み場の周辺をお地蔵さんの地所にして、その年貢でお祭りを行うようになりました。

子供の神様

ある日、子供ができずに困っている村人が、お地蔵さんに「子宝に恵まれますように」とお参りしました。すると、じきに子供が授けられました。



また、子供が弱くて困っていた夫婦は、「子供が丈夫になりますように」とお願いすると、まもなく子供は丈夫になりました。それからいつの間にか子育て地蔵と呼ばれるようになりました。

にぎやかなお祭り

高井さんは「この話は子供のころ、ひいじいさんから聞きました。お地蔵さんは富士川上流のニギヤカから流れてきたようです。昔は今の中島新道町の交差点付近に社がありました。昭和五年に現在地へ移し、首もしつかりつくりました。毎年七月二十一日のお祭りには、五十軒ぐらいの露店が出て、身動きできないほどに、にぎやかになります」と話してくれました。